

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

NO.1

嬉野市議会議員

森田明彦

| | | | |
|------------|---|---------------|-----------------|
| 実施月日 | 令和元年8月26日(月) | | |
| 実施時間 | 14時00分～17時40分 | | |
| 調査先 | ロワジールホテル那覇及び航空自衛隊那覇基地 | | |
| 調査所在 | 那覇市西3-2-1(ロワジールホテル那覇)・那覇市字当間301(航空自衛隊那覇基地) | | |
| 調査の目的 | 第14回九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会および航空自衛隊那覇基地現地研修視察 | | |
| 調査先担当者 | 九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会 会長 又吉清義(沖縄県議会) | | |
| 内容・結果等 | ◎ 第14回九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会 | | |
| | 内容 1、役員就任について(規約により、開催地の県議会会員より選任 会長、又吉清義 副会長、山川典二 幹事長、花城大輔 監事、山川典二) 2～3、会長および来賓挨拶 4、議案審議 | | |
| | 第1号議案、平成30年度事業報告(案)及び決算(案)について ⇒ 原案通り可決 | | |
| | 第2号議案、令和元年度事業計画(案)及び予算(案)について ⇒ 原案通り可決 | | |
| | 5、大会決議 6、次期開催県(大分県)について ⇒大分県、濱田 洋会長より次期開催の挨拶 | | |
| | ◎防衛講話 演題 「南西諸島を取り巻く安全保障環境」 | | |
| | 講師 航空自衛隊 南西航空方面隊司令官 空将 鈴木康彦氏 | | |
| | ●南西地域の環境 ・東アジアの中心、那覇を中心に円を描くと1,500km圏内に香港、マニラ、ソウル、東京が入る。 ●広大な海域 ・那覇を東京の位置に置くと東西1,000kmに東北から四国の一部 | | |
| | ○沖縄県2,281km ² 全国44位(国土面積の0.6%)に、米軍施設は184,993千m ² で70.28%を占める | | |
| | ・まとめと感想 総会については原案通り可決した。防衛講話では鈴木司令官による、東アジアにおける沖縄の位置づけ、中国側から見てみると、東シナ海は実効支配したい軍事的に重要な地域である。また、領空侵犯などへのスクランブル発進も近年は年間400回を越えるなど脅威が増している。 | | |
| | 16時～那覇基地視察で自衛隊機と民間機共同運航の様子は佐賀空港の今後の参考と思える。 | | |
| 上記活動に要した経費 | 経 費 の 内 容 | 支 払 先 | 金 額 (円) |
| | 旅費及び宿泊費 長崎～那覇往復航空券 沖縄2泊分宿泊費含む | 株祐徳旅行 バス代等 | 48,620 2,750 |
| | 合 計 | | 51,370 |

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

NO.2

嬉野市議会議員

森田明彦

| | | | |
|------------|---|-------|-----------|
| 実施月日 | 令和1年8月27日 | | |
| 実施時間 | 9時45分～11時40分 | | |
| 調査先 | 宜野湾市役所 | | |
| 調査所在 | 宜野湾市野嵩一丁目1番1号 | | |
| 調査の目的 | 普天間基地の概要について | | |
| 調査先担当者 | 宜野湾市議会 東川上 芳光事務局長 基地政策部 基地渉外課 吉村純 課長 同 崎原邦子係長 | | |
| 内容・結果等 | 1、松川正則 宜野湾市長、 上地安之 宜野湾市議会議長表敬 | | |
| | ○初めに松川市長より「米軍普天間基地」の概要説明 | | |
| | ・まちのど真ん中にある普天間飛行場 | | |
| | ・返還合意の原点は危険性の除去と基地負担の軽減、戦後70年以上もの長期間、航空機事故の危険性や騒音被害等、市民の生活環境に大きな負担を強いていることに加え、効率的なまちづくりを進める上での阻害要因になっている。 | | |
| | 宜野湾市の面積(約19.8km ²)の内、普天間飛行場はまちの中心部に位置し、約4分の1を占めている | | |
| | 普天間飛行場の常駐機は、オスプレイ24機やスーパースタリオン12機など58機である。 | | |
| | 所有形態、地主は3,722人(市内在住2,178人)⇒土地の所有権の売却も増えている(投機目的か) | | |
| | 基地と財政、一般会計歳入額に占める基地関係収入の割合は6.5%に留まっている。(少ない) | | |
| | まとめと感想 日米両政府において、返還合意がなされた普天間飛行場は合意後20年以上経た | | |
| | 今も尚、実現できていない。松川市長が強調された東アジアと日本本土の中心に位置する普天間飛行場の跡地活用で、沖縄振興の発展及び日本経済の成長の一翼を担うフィールドになりうる。 | | |
| | 平成27年に一部返還された西普天間地区には、令和7年度に琉球大学医学部と付属病院が移転、基地跡地が日本の宝となるよう取り組む、との説明には九州地域の議員として感ずるものが有った。 | | |
| 上記活動に要した経費 | 経 費 の 内 容 | 支 払 先 | 金 額 (円) |
| | NO1に同じ | | |
| | 合 計 | | |

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

NO.3

嬉野市議会議員

森田明彦

| | | | | | |
|--------|--|---|---|---|--------|
| 実施月日 | 令和元年8月27日(火) | | | | |
| 実施時間 | 14時00分～16時00分 | | | | |
| 調査先 | 名護市 辺野古交流プラザおよびキャンプシュワブ(辺野古埋め立て)ゲート前 | | | | |
| 調査所在 | 名護市辺野古913番地10 | | | | |
| 調査の目的 | 「辺野古埋め立て問題」について | | | | |
| 調査先担当者 | 名護市議会議員 宮城安秀 氏 | | | | |
| 内容・結果等 | <p>沖縄県の基地の現状、沖縄県で184,993千㎡を米軍の基地で占め、全国の米軍専用施設区域の実に70.28%が沖縄県に集中している。沖縄本島の15.34%が基地施設面積である。</p> <p>名護市の人口は55区で約62,000人、その内辺野古区は13区で約3,000人が暮らす。沖縄の米軍普天間基地の移籍先として、名護市辺野古が日米間で決定しているが、この名護市辺野古という地域がどのような地域であるのか。名護市は基地移設反対派の市長が当選し、地元が反対している！とのニュアンスが強いが、実際、<u>辺野古地区としては受入を容認されています。</u></p> <p>本土で沖縄の地理感覚がない方からは、1つの市内で反対が行われていると思われるが名護市の市街地から辺野古は山を隔てた向こう側なので、大半が住む市街地の方は正直なところ、あまり実感がない場所だろう。また、環境の問題で希少生物の「ジュゴン」の生息について話題に上がるが、長年漁をやっている地元住民も、回遊は有るだろうが生息しているのは見た事が無いとの事。</p> <p>辺野古埋め立てゲート前視察、一定の時間毎に反対派(県外多し)の方々がプラカード掲げ、活動</p> <p>・まとめと感想、国家の問題として、全国版で見聞きしない日は無い位に、辺野古埋め立て問題は取り上げられているが、当事者感覚が無かった私自身、不謹慎ながら真剣に考えていなかった事は反省すべき事であった。また、氏の講義を聞き、辺野古に関する報道と現地の当事者から聞く事実が乖離している。基地の米兵は永年交流している隣の区の住民だとの言葉が印象に残った。</p> | | | | |
| | 経費の内容 | 支 | 払 | 先 | 金額 (円) |
| | NO1に同じ | | | | |
| | 合計 | | | | 0 |
| | 上記活動に要した経費 | | | | |
| | | | | | |